

麦作ごよみ

月	11			12			1			2			3			4			5			6	
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育	11月20日播種				播種	発芽		有効分げつ期		無効分げつ期		莖立期		節間伸長		出穂期		登熟期					
主な作業と要点	土壌改良剤散布 排水対策 種子消毒 基肥散布 除草剤散布 11月20日播種																赤かび防除1回目 穂揃追肥3	赤かび防除2回目	カラスノエンドウ 抜き取り	適期刈取			

1. 品種特性表 (播種時期の厳守・早播はしない)

品種名	播種期	播種量 (10a当り)	出穂期	成熟期	注意事項
イチバンボシ (裸麦)	11月20日	7~8kg	4月3日	5月22日	・湿害に弱いので排水不良田では作付しない。 ・大豆跡には作付しない。(品質が低下するため)
チクゴイズミ (小麦)	11月20日	6~7kg	4月12日	6月4日	・大豆跡では苗立ちが良いので播種量は5kgとし、厚播きしない。

2. 施肥、土づくり (土改材は必ず使用する事) (10a)

品種	土壌改良材	基肥	追肥 1	追肥 2	穂揃追肥3
イチバンボシ	珪鉄・粒状ミネラル 200kg 石灰 100kg	くみあい化成ベスト444 40kg	NK2号 20kg ベスト444 25kg	NK2号 10kg ベスト444 10kg	—
チクゴイズミ	珪鉄・粒状ミネラル 200kg 石灰 100kg	くみあい化成ベスト444 40kg	NK2号 30kg ベスト444 35kg グッドIB407 30kg	NK2号 15kg ベスト444 20kg	硫安*1 10kg~15kg

※前作が大豆、野菜の場合には、施肥量を半分にする。
 ※稲わらは全量すき込むこと。すき込まない場合は基肥を10kg減らす。
 ※1 チクゴイズミはタンパク質含有率を上げるため、必ず3回追肥をする。(3回目は硫安)

3. 種子消毒

薬剤名	処理方法
ベンレートTコート	種子10kgに対し50gを乾粉衣する。

4. シロトビムシ類と鳥害対策 (種子消毒含む)

薬剤名	処理方法
キヒゲンR-2フロアブル	種子10kgに対し200mlを塗沫処理する。
クルーザーFS30	種子10kgに対し60mlを塗沫処理する。(小麦に限る)

5. 病害対策

赤かび病 (裸麦、小麦とも必ず2回防除を行う。)

- ・第1回目開花期 散布
- ・第2回目1回目から1週間後散布
- ・開花期に曇天降雨が続く比較的温暖いと多発するので注意する (10a)

薬剤名	希釈倍数	散布量
チルト乳剤25	1,000倍	100~150ℓ
ワークアップフロアブル	2,000倍	100~150ℓ
トップジンM水和剤	1,000倍	100~150ℓ

ヘリコプター防除 (10a)

薬剤名	希釈倍数	散布量
チルト乳剤25	8倍	0.8ℓ
ワークアップフロアブル	24倍	0.8ℓ
トップジンMゾル	8倍	0.8ℓ

6. 除草 (カラスノエンドウ防除の徹底) (10a)

除草剤名	散布時期	使用量(10a)	水量	使用上の注意	重点雑草の防除方法
ボクサー	播種直後 (スズメノテツポウは1葉期まで)	400ml 500ml	70~100ℓ	ハーモニー抵抗性スズメノテツポウに効果が高い。	1. スズメノカタビラやカズノコグサが多い圃場 (初期除草剤+生育期除草剤) 播種直後にボクサー(乳剤)・クリアターン乳剤・細粒剤Fを散布し、更に1月上・中旬にハーモニーDF水和剤を散布する。 2. ヤエムグラ、カラスノエンドウ等広葉雑草が多い圃場 ●カラスノエンドウは、2~3葉期までにハーモニーDF水和剤を散布する。 ●ヤエムグラは、4節期までにハーモニーDF水和剤を散布する。 カラスノエンドウの子実が麦に混入すると製品にならないので収穫期まで残った場合は必ず手で抜き取る。
リベレーターフロアブル	播種直後	60ml(裸麦) 60~80ml(小麦)	100ℓ	裸麦は、薬害に注意! ノミノフスマに効果が高い。	
クリアターン乳剤	播種直後	500ml 700ml	70~100ℓ	●雑草出芽前に散布する。 ●播種深度は1cm以上とする。 ●ヤエムグラには効果が劣る。	
クリアターン細粒剤F	播種直後	4~5kg	—		
ハーモニー細粒剤F	播種後~麦3葉期	4~5kg	—	●土壌が乾燥している場合やヤエムグラには効果が劣る。	
ハーモニーDF水和剤 (スズメノテツポウ) (5葉期まで)	1月中旬~2月中旬 (莖立期前まで)	7.5~10g	100ℓ	●使用後、タンク及び散布器具は消石灰を用いて洗浄する。 ●土入れ・麦ふみ直後の散布は避ける。 ●周囲に園芸作物がある場合は、飛散しないよう十分注意する。	

※隣接ほ場で他作物が栽培されている場所での農薬散布の際は、周辺作物へ農薬飛散しないよう注意してください。
 ☆農薬は、令和5年9月8日現在の登録状況にもとづき記載しております。